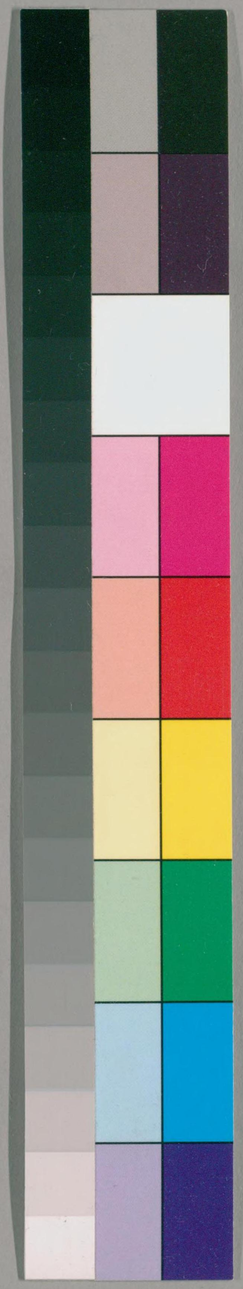
古史成文

六之卷

848
161

峡

入



国立国会図書館　タイトル『古史成文』 請求記号 848-161

ガラス使用

古史成文

景行天皇
成務天皇

六

国立国会図書館　タイトル『古史成文』 請求記号 848-161

ガラス使用

848
161

古史成文六之巻

日代宮紀

大足日子忍代別天皇元年七月即坐于高
御座〇書坐于纒向之日代宮而治天下
二年云年三月立播磨稲日大郎女而爲大
矢〇古事記フタトセトイフトシノヤヨニ

平篤胤惶謹記

景行

神代紀天之浮橋〇天之瓊矛〇天穂日命アマノ
もべてアマと訓り古訓るもべし古かくアマとぞ
りしし

后矣〇書紀此后之所生坐御子蠶角別王
下連等之祖次大碓命守君大田君嶋田次
也〇古事記次大碓命君池田首等之祖
小碓命其大碓命小碓命一日同胞雙生爲
天皇思異而詰於碓矣因號其二柱之王御
名曰大碓小碓也此小碓命亦御名者倭男
具那命幼而有雄畧之氣及壯而容貌魁偉
御身長一丈御力强焉〇書紀又要褶日大郎
女之弟褶日稚郎女而所生坐御子眞若王
次彦人大兄王茨田勝等之祖
也〇古事記
三年云年二月卜合幸于紀伊國而將祭祠
群神祇而卜兆不吉之故幸汗者止而還屋
主忍男武猪心命而令祭矣於是屋主忍男
武猪心命詣而居于阿備柏原而祭祀矣仍
九年往之間娶于紀伊直遠祖菟道比古之

国立国会図書館　タイトル『古史成文』 請求記号 848-161
ガラス使用

女影比賣而所生坐子建内宿禰命（紀書）
四年云年二月 天皇幸于美濃國之時左右
奏言茲國有佳人曰弟比賣容姿端正八尺
入毘古命之 女也白矣於是天皇欲得爲妃
而幸于其家矣爾弟比賣聞天皇之入坐而
隱竹林矣於是權將喚其弟比賣而居于泳
宮於池浮鯉魚而朝夕臨視戯遊之時弟比
賣欲見其鯉魚而密来臨池之時天皇即留
而通矣爾弟比賣不欲夫婦之道而請曰吾
不欲交接之道雖然恐皇命而暫仕奉爲吾
者容姿亦醜之故久不堪陪仕也有吾姉名
者八坂入比賣其容姿美麗宜納爲白矣（紀書）
於是天皇喚其八尺入比賣命而所生坐
御子稚足日子命次五百城之入毘古命次

国立国会図書館　タイトル『古史成文』 請求記号 848-161
ガラス使用

十七柱之御子等者悉別賜于國々之國造
亦和氣及稻置縣主矣○古事記十一月天皇自
美濃還坐而更都於日代宮矣○書紀
十二年云年七月熊襲反而不朝貢於是天
皇八月幸于筑紫而九月到周防娑磨之時
望南方而詔群卿曰於南方烟氣多起則賊
將在焉宜而留于其處而先遣多臣祖武諸
木國前臣祖菟名手物部君祖夏葦而令察
其狀矣爰有女人曰神夏磯比賣也其徒衆
甚多而其國之魁帥也其聆大御使之至而
根拔磯津山之賢木拔而於上枝挂八握劔
於中枝挂八咫鏡於下枝挂八尺瓊亦樹素
幡于船舳參向而啓曰願無下兵我之屬不
有奉遵者今將歸德也唯有殘賊爲一曰眞

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161
ガラス使用

タリトイバメリ
無比結於蒐狹川上二曰具無是居於御木
カハノホトリニヒトリヲイセミタリトコレ
川上三曰麻剥居於高羽
カハノホトリライフアサハギトヲリニタカハカ
川上四曰土折猪
ラリトカクレスミ
折隠住於緑野川上而掠人民是四人之所
ヲ二住於緑野川上而掠人民是四人之所
ヲル ミナヌマノトコロナリ カレオノモクカメトモガラヲテ
擾玆要害之地也故各領券属而為一衆之長
テ ミナマヲレゾレンタガハオホミコトニメ ネハマクルヲ玉ヒトマラレキ
而皆曰不從皇命為願急撃也白矣於是武
モロキラ マヅカヌヅリアサハギガトモガラヲテタマヒアカギヌハヤマ マタクサぐ
諸水等先誘麻剥之徒而賜赤衣褌及種々
メヅラニキモノラテマタトムレメサソノミタリラバサ オノガトモガラヲテマサケリ
奇物而無令搗其三人則率己衆而參來焉
カレ コトぐミトラヘテ コロヒツ スメラミコトツヒニイデマレ
故悉捕而誅焉天皇遂幸于筑紫而到坐豊
ミチノクチノクニナガヲノ クテカリミヤヲテマシノヘキカレヲソフイアヤマト
前國長峡縣興行宮而居之時聞其蝮曰京
也十月幸於碩田國而遊覧其地形之廣大
カムナヅキイデマレニオホイクノクニテミソナハシソノトコロノサマノヒロクオホキク
亦麗而名碩田矣到于速見邑之時於其蝮
マタウルハシキラテナヲ石ヒカホイクタトキイタリマセルハヤミノムラニトキニソノヲ
有女人曰速津比賣為一蝮之長其聞天皇
アリ ハヤツヒメトナリコノトコロノヲサシキメラミコト
幸行而自奉迎而諮曰茲山有大石屋而曰
イデマストテミヅカラマツリムカヘテマヲシケラクコノヤマニアリオホキナルイハヤライフ
鼠石窟於其石窟土蜘二人住也一曰青二
ネズミノイハヤトニソノイハヤツチグモフタリスメリヒトリライヒアラトヒトリヲ

国立国会図書館　タイトル『古史成文』 請求記号 848-161
ガラス使用

曰白又於直入縣禰疑野土蜘三人在也曰
打猴八田國麻呂是五人並強力亦衆類多
也皆曰不從白王命若強喚則興兵而距為白
兵天皇雖惡思不得進行矣故留于球覃邑
而興權宮而居矣○書
野也○土記風斯而與群臣議曰多動兵衆而令
討則土蜘等畏而將隠于山野而為後愁困
採海石榴樹而作椎為兵而可令討焉詔而
簡猛卒而授其兵椎矣於是穿山排草而襲
石室土蜘而破于稚葉川上悉殺其黨焉血
流而至踝矣故時人其作椎之處曰海石榴
市亦血流之處曰血田也復將討打猴而徑
度祢疑山時虜之射矢自山横射而流於官
軍之前如雨之降兵天皇更返于城原而ト

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161
ガラス使用

於水上便勒兵而先擊于八田於祢疑野而破
矣爰打猴謂不得勝而請歸伏奉然不聽之
故皆自投洞谷而死矣○書紀天皇御親伐
此賊而在于祢疑野勅而歷勞兵衆矣因謂
祢疑野也○風土記天皇初將討賊而次于柏峡
大野之時於其野有石長六尺廣三尺厚一
尺五寸矣天皇祈曰吾得滅土蛛等則茲石
將如柏葉而擧焉詔而驟上之時如柏葉上
於大虚焉故号其石曰踏石也是時祷奉之
神則志我神直入物部神三柱之神也十一月到坐日向國起行宮而居矣
是謂高屋宮也十二月天皇議討熊襲而詔
群臣曰吾聞於襲國有厚鹿文迮鹿文云者
是二人熊襲之渠師而衆類甚多是謂熊襲

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161
ガラス使用

八十建勢甚強爲何將平爲詔之時一
臣進曰熊襲建有女二人兄曰市乾鹿文弟
曰市鹿文容端正心雄武也賜重幣而招納
麾下伺其有狀而不意擊則雪必敗爲白矣
於是天皇歎其二人之女而納于御所通于
市乾鹿文而陽寵之時市乾鹿文奏白天皇
無愁熊襲之不服我有良謀也令從一二之
兵卒於我爲白而返家多設醇酒而令飲已
之又則酔而寐矣於是市乾鹿文密断父之
弓弦爲因所賜之兵士一人進而殺熊襲建
矣爾天皇悪市乾鹿文之所爲而誅矣以第
市鹿文賜於火國造矣○書紀
十三年云年五月悉平襲國而於高屋宮六
年居矣於是其國有佳人名曰御刀媛召

国立国会図書館　タイトル『古史成文』 請求記号 848-161
ガラス使用

而爲妃所生坐御子豊國別王
此者日向國造之祖也○

書紀

十七年云年三月幸于子湯縣而遊于丹裳
小野時望東方而謂左右曰是國也眞向於
日出方矣故号其國曰日向也○書紀

十八年云年三月天皇將向京而巡狩筑紫
國而到夷守之時於石瀬河辺人衆聚爲於
是天皇遥望之詔左右曰其集者何人也若
賊予而遣兄夷守弟夷守二人令覩之時弟
夷守還來而諮曰諸縣君泉比賣依獻大御
食而其族會焉白矣四月到熊縣之時於其
處有熊津比古者兄弟二人矣天皇先使
徴兄熊則從御使而詣也亦徴弟熊而不參
來故遣軍兵而誅矣斯而自海路泊於葦北

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161
ガラス使用

附箋
サ社記ニオ昔天照大神ヲ
ノ卿田有之天ノ長田トシ
傳ハヒルハ彼田ノ種也智
以吾高天原ニ所御齋テ
庭之穗ヲ當御吾兒ニ而
神勅丁寧ヲ畏ル事也
又水ハ天孫之降給時
神甲ケルハ葦原ノ中
国皆潮也可飼仍供奉ノ
神ノ中ニ天義雲命トイデキ
云神ヲ天上ヘ遣シテ皇
祖ヘ給即琥珀ノ瓊ヲ
ヘテ給之此神持下ル
国ニ當給是故此神ヲハ
天再上ノ命トモヨメ彼琥
珀ノ瓊ヲ今不絶トスル
在所彼井ノ水ヲ飲物穗ヲ
ノ食無不神体無水神
恩云々
水經ニハ云々
神等白之葦原中国者
潮也可馬白ニ社

小島而進食之時忽然寒泉從岸傍涌出矣乃酌而獻焉故号其島曰水蔦也其泉則祈于天神地祇之時忽然寒泉從岸傍涌出矣乃酌而獻焉故号其島曰水蔦也其泉在于今也○書紀

天再上ノ命トモヨメ彼琥珀ノ瓊ヲ今不絶トスル在所彼井ノ水ヲ飲物穗ノ食無不神体無水神恩云々

五月從葦北御船発而到于火國於是日没矣不知著岸遥視火光矣天皇詔挾

水經ニハ云々於是諸
神等白之葦原中国者潮也可馬白ニ社

挾者曰直可指火處因指火而往則即著岸馬天皇問其火之光處何謂邑也國人對白是八代縣火邑也但火由者未得審矣于時詔群臣曰燎火者非俗之火云火國由知所

以然矣○書紀
風土記

六月自高來縣渡于玉杵名邑時殺其處之土蜘蛛津頬云者而到于阿蘇國其國郊原曠

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161
ガラス使用

遠而不見人居矣於是天皇曰是國有人乎
時有二神曰阿蘇都比古阿蘇都比賣忽化
人而遊詣白吾二人在何曰無人耶白矣故
號其國曰阿蘇也
七月到筑紫後國御木而居於高田行宮時
有僵木長九百七十丈矣百寮蹈其樹而往
來矣因時人歌曰阿佐志毛能美氣能佐遠
婆斯麻幣都藝美伊和多羅須母美氣能佐
遠婆斯麻天皇問曰是何樹也一老夫曰是
樹者歷木也聲永僵之先當朝日暉則隱杵
嶌山當夕日暉則覆阿蘇山也於是天皇曰
是樹者神木也故是國宜号御木國矣到于
八女縣之時越前山而南方望粟岬而詔曰
其山峯岫重疊而甚美麗也若於此山神在

国立国会図書館　タイトル『古史成文』 請求記号 848-161
ガラス使用

子詔之時水沼縣主猿大海奏言女神名八女津比賣常居山中也白矣故号其國曰八女國也

八月到于的邑而進食之時膳夫等遺御盞矣故時人号其忘盞之處曰浮羽也昔筑紫俗号盞曰浮羽故也今謂的者訛也

十九年云年九月天皇到自日向國矣

二十年云年二月遣五百野皇女而令祭天照大御神矣

二十五年云年七月遣武内宿祢令察北陸及東方諸國之地形且百姓之消息也

二十七年云年二月武内宿祢自東國還參上而奏言東國之中有日高見國其國人男女並椎結文身而勇悍也是總曰蝦夷土地

国立国会図書館　タイトル『古史成文』 請求記号 848-161
ガラス使用

亦決壌而曠土也撃而可撃也（白矣）

八月熊襲亦反而侵邊境（矣）十月遣小碓命

令撃熊襲焉（書紀）○先是天皇詔小碓命曰何

我汝之兄於朝夕之大御食不參出來專汝

可勞教覺（矣）如此詔而後至于五日猶不參

出矣尓天皇問小碓命曰何汝之兄久不參

出若有未誨乎問則答白既勞焉又詔如何

勞則答白朝暑入厠之時捕而搤批引裂其

枝裏薦而投棄焉白矣於是天皇惶其御子

之建荒之情而詔曰西方有熊襲建二人是

不伏無禮人等也故可取其人等詔而遣（矣）

此時小碓命卽髮結於御額也（古俗年卄兒

束髮於額十七八間多為角子今亦於

然也○本文古事記註文日本書紀於是小

碓命曰吾得善射者欲與行何處將有善射

国立国会図書館　タイトル『古史成文』 請求記号 848-161
ガラス使用

モノアル ヒトマラレケラクミ ヌノクニ、アリヨクコミイルモノ マラス カト ヒコギミトト
者或人啓曰美濃國有善射者曰弟彦公也
マラレキ マヽニ ツカハレカワラキノヒト ミヤ シ
白兵於是遣葛城人宮戸彦而喚之時弟彦
ギミ スナハチキ イレ ウラノヨコタテ マタ ヲハリノタゴ ノ イナギ チガカ
公便率石占横立及尾張田子之稻置乳近
ノ イナギヲ テ マキ ケリ スナハチミタガヒヲ ウ
之稻置而參来則從小碓命而行矣○書紀
コニ ヲ ウスノミコトタヽカリソノ ミ ヲバヤマトヒ メノミコトノ ミゾ ケレヲ
爾小碓命給其御姨倭比賣命之御衣御裳
イレ タチヲ ニ ミアトユロ テ イヲマレキ クマ
納劔于御懷而幸行兵○古事記十二月到於熊
ソノクニ ヌ ソノクマ タケル ガイヘニ ミタマヘバ
襲國焉○書紀故到于熊襲建之家而見之則

於其家之邊軍三重圍而作室而居也於是
イヒトヨミ セムトニヒムロ ウタゲ テ マケリナヘ ヲ
言動為新室宴而設備食物矣故遊行其傍
テ マケタヽヒソノスル ウタゲヒヲ キ コニナリ ニ
而待其為樂日矣爾臨于其樂日而其所結
ソノ ヲ ミカミヲゴトオトメ ノ カミノクヾリ タレ ケム ソノミヲバ ノ ミゾ
之御髮如童女之髮掃垂服其御姑之御衣
ミ モヲ テステニナリ オトメ ノスガタニ テ マシリタチ ソノ カミナドモノ
御裳而既成童女之姿而交立其女等之中
テ イリマシ ソノムロヌケキ コニクマソ タケル アニオトフタリ ミ
而入坐于其室内矣爾熊曽建兄弟二人見
メデ ソノオトメヲ テ マセ ニ オノガナカ テ サヲリニハスゲタリ カレ ソノタゲナハヽル
感其嬢子而坐於己中而盛樂也故其酣之

国立国会図書館　タイトル『古史成文』 請求記号 848-161
ガラス使用

時自御懐出劔取熊曽之衣衿而以叙自其
胸刺通之時其弟建見畏而逃出矣乃追至
其室之梯本而取其脊以劔自尻刺通矣爾
熊曽建白言莫動其刀吾有可白言也白爲
爾暫許而押伏爲於是白言汝命者誰也乎
詔曰吾者坐于纒向之日代宮而治天下大
鳴國大帯日子忍代別天皇之御子名倭男
具那王也聞者倆熊曽建二人不伏無禮而
詔可取殺倆而遣也爾其熊曽建白言信然
也於西方除吾二人而無建強人然於大倭
國益吾二人而建男者坐矣是以吾可獻御
名自今以後應稱倭建御子也白矣是事白
訖則即如熟苽振折而殺也故自其時稱御
名而謂倭建命也○古事記 然後遣弟比古等而

国立国会図書館　タイトル『古史成文』 請求記号 848-161
ガラス使用

悉斬其黨類矣 ○書紀 然而還上之時言向和
山神及穴戸神 ○古事記 從海路到于吉備而渡
穴海於其處有惡神亦既至坐于難波柏濟
於其處有惡神而以其放毒氣令苦路人等
爲故悉殺其荒振神等而水陸之徑竝開爲
○書紀 如此掃治而參上復奏矣 ○古事記
四十年云年六月東夷多叛而甚騷動爲於

是七月 ○書紀 天皇亦頻詔倭建命曰可言向
和東方十二道之荒振神及不伏人等矣 ○古
事記 於是倭建命奏言吾則先勞西國爲是役
者必大碓命之事矣時大碓命愕然逃隱草
中矣故遣使者而召來殺天皇責白汝言不
欲則豈强那何未對賊而猶其懼爲而遂封
于美濃國仍如封地也 ○書紀 先是天皇聞者

国立国会図書館　タイトル『古史成文』 請求記号 848-161
ガラス使用

定三野國造之祖神大根王之女兄遠子弟遠子二孃子其容姿美麗而遣大雄命而喚上焉故其大雄命不召上而已自婚其二孃子而更求他女人而詐其孃子也而貢上矣於是天皇知省其他女人而恒令經長眼亦不婚而令惚矣故其大雄命娶兄比賣而所生坐子押黒之兄日子王須知気之祖也

亦娶弟比賣而所生坐子押黒弟日子王此者三野之宇佐君等之祖也○古事記

於是天皇詔倭建命曰東夷者暴強而各貪境相盜略亦山郊有邪神遮径而令苦人其中蝦狄尤強焉頻犯邊界或伺農桑之時而畧人民吾察汝為人形則我子而實則神也是天神愍吾而将令治國之不平令

国立国会図書館　タイトル『古史成文』 請求記号 848-161

ガラス使用

アマツコノアメノシタ
生乎是天下則汝天下也是高御座則汝高
ミクラゾアカノオモニカリテ
御座也渡慝而可言向和為詔而○書紀遣之
トキニクミヒヲキ○古イリヒコノミコト
時給比々羅水之八尋殿矣○古事紀命吉備建
ヒコトニオホトモノタケヒノムラジヲテ
比古奥大伴武日連而令従亦以久米直之
オヤナヽワカハギヲカシハテトキ
祖七掬脛為膳人矣○書紀凡此倭建命平國
メグリマシヽトキイツモコノサキシ
廻行之時恒此七掬脛為膳夫而御従仕奉
キ○古事記

コニカムナヅキヤマトタケノミコトクニタヒヲヘテマカリイデマストキニマサリマシイセノ
爰十月倭建命受命而罷行之時參入伊勢
オホミカミノミヤニテラガミタチニカミノミカドヲ
大御神宮而拜神朝廷而白言其御姑倭比
メノミコトニハスメラミマトハヤクオモホスヲシテアレネトヤシ
賣命曰天皇既所思吾可死乎奈何擊還
ニシノカタノマツロハスヒトドモヲカヘリマヰノボリコシヲアヒダニイクガモ
西方不伏人等而返參上来之間未有幾時
ズタマハイクサビトヲモテイマサラニスミヤカニツカハヒムカシノカタトラマリアメミチノ
不賜軍衆而今更令平遣東方十二道之不
ヌヒトドモヲヨリコニオモホシメスアレネトヤツレヲ
伏人等擾因此思惟則猶所思看吾可早死
ナホオモホシメスナリケリトマヲシテヤマトヒメノミコトタマヒヲヲサメクモノタチヲ
也爲白而患泣罷之時倭比賣命賜御衣裳劔
○十八

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161
ガラス使用

亦賜御饗而詔若有急事則可解茲饗口矣
○古事記於是倭建命以其比々羅木之八尋鉾
根奉献大御神宮矣即倭比賣命其御鉾者
納緋襲而爲皇大御神之御霊而奉隠矣○世
記故到坐尾張國而○書紀入坐尾張國造建
稲種命之家而側見其妹宮簀比賣而○熱田記
乃雖思將婚亦思還上之時將婚期定而幸
于東國而悉言向和山河之荒振神及不伏
人等矣故発到坐相武國之時其國造詐白
於此野中有大沼住是沼中之神甚道速振
神也白爲於是省行其神之
國造於其野著火矣故知被欺而解開其
御姨倭比賣命之所給嚢口而見之則於其
嚢有火打爲○古事紀於是御子所佩之草雲劔

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161
ガラス使用

自抽出而薙攘王之傍草矣一書故以其
火打而打出火著向火而焼退還出而皆切
滅其國造等即著火而焼矣故其地者於今
謂焼津也事記又改其名而号草薙矣書
紀自其地入幸而事記欲往坐上總國而書
渡走水海之時事記望海而高言曰此者
小海耳立跳可渡也詔矣書紀而其渡神興
浪御船廻漂而不得進渡爾其后名弟橘比
賣命事記白御子曰今風起浪泌而御船欲
沒是必海神之心也書紀吾易御子而入海
中也御子者所遣之政遂而應復奏焉白而
將入于海之時以菅畳八重皮畳八重絁畳
八重敷于波上而下坐其上矣於是其暴浪
自伏而御船得進矣爾其后所歌之御歌曰

国立国会図書館　タイトル『古史成文』 請求記号 848-161
ガラス使用

佐泥佐斯佐賀牟能袁怒ヲ通モ由涼肥厳本
那迦迩多知氐斗比斯岐美波母故七日之
後其后之御櫛依于海邊矣乃取其御櫛作
御墓而治置矣○古事記故時人号其海曰馳水
也○書紀
爰倭建命従上總轉幸而入于陸奥國時於
御子之御船懸大鏡従海路廻於葦浦横渡
玉浦而至蝦狄之境時蝦狄之賊首嶋津神
國津神等皃於竹水門而欲距然遥視御子
之御船而豫怖其御威勢而知不得勝而悉
捨弓矢望拝而白仰視君容則秀於世若神
也乎欲知御名倭建命詔曰吾者現人神之
子也於是蝦夷等慈慄而改心降立于海而自扶
御船而著岸而服罪焉故免其罪而俾其首

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161
ガラス使用

帥而令従二御供一紀 ○書亦互二和山河之荒振神等一而還上焉 ○古事記

如此而歴二常陸一至二甲斐国一居レ于二酒折宮一時擧レ火而進レ食是夜以御歌問二諸侍者一曰通二此間一乎 諸侍者不レ能答言時其御火焼之老人續御歌之末而歌云 迦賀那倍許曾邪用弖通波許々能用弖比理都久波袁須疑許曾伊久用加泥都流諸侍者

適波登袁加袁是以譽二其老人一敦賞兵器是以譽二其老人一敦賞兵器一是以譽二其老人一敦賞兵器一是以譽二其老人一敦賞兵器一

於是久遣吉備武彦於越國而令察其地形
及民之須不而倭建命進入信濃國矣○書紀
既遣于峯而覘之則於山中食御粮之時其
山神將令若御子而化白鹿而立乘於王之
御前爲御子思異而○書紀
片端待打則中其眼而被打殺矣○古事記
爰御子失道而不知出所之時白狗自來而爲導
之狀故隨狗之行而行則出于美濃矣爾吉
備武比古自赴參來而奉遇矣先是者度信
濃坂者多中神氣而瘴毒爲然從殺白鹿之
後踰是山則噴蒜而塗人及牛馬則自不中
神之毒氣也○書紀
爰倭建命更還來於尾張國而入坐先日所
期置之宮簀比賣之許爲於是献大御食之

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161
ガラス使用

時其宮簀比賣捧大御酒盞而献焉爾宮簀
比賣其於襲之襴著月経一故見汙其而御歌
曰比佐迦多能阿米能迦具夜麻斗迦麻邇
佐和多流久毘弘波煩多和夜賀比那袁麻
迦牟登波阿禮波須禮杼佐泥牟登波阿禮
波意母閇杼那賀祁勢流意須比能藤爾
都紀多知邇祁理爾宮簀比賣答御歌而歌
曰多迦比迦流比能迦具夜須美志和賀
意富岐美阿良多麻能都紀波岐閇由久宇倍那宇倍那
良多麻能都紀波岐布禮婆阿
岐美麻知賀多尓和賀祁勢流意須比能須
蘇爾都紀多多那牟余〇古事記
奈流美良袁美夜禮婆登保志比多加知爾
許能由布斯保爾和多良部牟迦母於先倭
倭建命又歌曰

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161
ガラス使用

健命坐于甲斐酒折宮而戀宮簀比賣而歌
曰阿由知賀多比迦美阿泥許波和禮許弥
登登許佐流良弥夜阿波禮阿泥古袁此數
歌者爲此風俗歌也○熟田記故爾御合而夜中
向厠解御佩之劔而掛厠邊之桑木遺忘而
還入於寢殿驚寤而更往而取之其樹甚輝
光而如神然不憚而取劔罷還坐而告宮簀比
賣桑木光之狀則答曰彼樹舊無怪異可劔
之光倭建命默然寢息矣此後淹留而將
行之時語宮簀比賣曰吾暫歸京則必可迎汝
也此劔者神也宜持齋而爲吾床辱而即解
大刀而置之時○風土記大伴建日臣諫曰
熟田緣記
勿留置此處奈何則聞前程氣吹山有荒振
神若非御劔之氣則何除其毒氣乎白矣倭

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161
ガラス使用

タケノミコト コトアゲシテノリタマヒモシ アラアラブル カミ
建命高言曰綏有荒振神一則撃而蹴殺而遂
カキ ソノクチヲ ニヤズ ヒノメモト テ ポリイデマシキ ○熱
置其口於宮簀圧賣之許而上幸汗矣 ○熱田記

一

コヽニ ヤマトタケノミコトイブキヤマニ
於是倭建命至于氣吹山 ○古事記

ノボリマスカノヤマニ トキニ
而登坐之時 山神令雹大氷 ○書紀

ヤマノカミ シ フラ オホ ヒ
山神化大蛇而塞道 爲妨倭建命不知者主

ザネノカミナルコトヲ ヲロチニ テ ノリタマヒコノ ヲロチハ アラブル カミノ ツカヒモノナラム
神化爲蛇而詔曰此大蛇者荒振神之使者也

ヤマトタケノミコトノリタマヒシ イブキヤマノ
倭建命詔曰茲山

ノボリマスカノヤマニ トキニ
而登坐之時 山神令雹大氷 ○書紀

ヤマノカミ シ フラ オホ ヒ
山神化大蛇而塞道 爲妨倭建命不知者主

ザネノカミナルコトヲ ヲロチニ テ ノリタマヒコノ ヲロチハ アラブル カミノ ツカヒモノナラム
神化爲蛇而詔曰此大蛇者荒振神之使者也

スデニ トリテ
既得殺正身則其使者豈求乎而跨其大蛇

テ ノボリマス トキニ ヤマノカミ シ フラ オホ ヒ
而登坐之時 山神令雹大氷 ○書紀

ヤマノカミ シ フラ オホ ヒ
所跋涉然強而汙則中神毒氣而瘼痺矣 ○書紀

カヘリ タヽリマシ テ イタリヤマモトニ
故還下坐而到山下之玉倉部之清水而

イコヒマス トキニ ノミタヽヒソノシミヅヲ テ
息坐之時飲其清水而御心稍寤坐矣故号

ソノ イフ サメノシミヅト
其泉謂居寤清水也 ○古事記

ヤマトタケノミコトマヽニ ハジメテ
倭建命於是始

ナヤマセリ ヒカレトモヤヽタヽレテ カヘリマサムト
痛身爲煞掖起而爲還於尾張而 ○書紀

イタリマス
到坐

○其

字書祇抵倍字ナリ

當藝野上之時詔者吾心恒念將自靈翔行然今吾足不得歩成桧之杖也謂當藝野也○古事記爰不入坐官簀比賣之家便移伊勢而到坐尾津崎於先向東之時停尾津濱而進食其時鮮一飯而置於一松下遂忘而去爲今至於此靈其飯不失而猶存矣○書紀

故御歌曰

表波理適多陀適牟

迦幣流表都能佐岐那流波比登都麻都阿勢袁比登都麻都比登適阿理勢婆多知波氣麻斯表岐奴岐セ麻レ斯表岐奴岐セ麻レ袁比登都麻都阿勢袁自其地幸而到坐三重村之時亦詔曰吾足如此三重勾而甚疲爲故号其地謂三重也自其地差少幸行然因其疲坐而漸御杖而稍歩坐矣故号其地謂杖衰坂也○古事記

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161

ガラス使用

自其地幸行而到坐能煩野之時憶國而歌
曰夜麻登波久邇能
阿袁加岐夜麻碁母
斯又歌曰伊能知能
美許母幣具理能夜
宇受邇佐勢曽能古
歌曰波斯祁夜斯和
多知久母此者片歌也
之俘等献於神宮又遣吉備武比古而奏言
向和訖東國之状而
御歌曰袁登賣能
都流岐能多知曽能
坐爲○古事記
早爲使矣○古事紀

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161
ガラス使用

於是天皇甚歎而詔曰吾子小碓命自往於東國朝夕待還日而不在然此何禍兮何罪兮詔而命群臣百寮而奉葬於其能煩野之時

○書紀 坐于倭后等御子等諸下到而作御陵之而

匍匐廻其地之那豆岐田哭泣作歌曰那豆岐能多能伊那賀良適伊那賀良岡波比母登富呂布登登許呂豆良

○古事記 於是倭建命化

白鳥而從御陵出而向濱而飛行爲因開其棺槨而視之明衣空留而御屍骨則無之

○書紀 爾其后等御子等於其小竹之苅杙雖御足跣破忘其痛而哭々追行矣此時之御歌曰阿佐士怒波良許斯那豆牟藐良波由賀受阿斯用由久那又入其海鹽而煩汗之時御歌曰宇美賀由氣婆許斯那豆牟意富

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161
ガラス使用

迦波良能宇恵具佐宇美賀波伊佐用布又
飛而居于其處之磯時御歌曰波麻都知登
理波麻用波由迦受伊蘇豆多布是四歌則
皆歌其御葬矣故於今其歌者歌天皇之大
御葬也 ○古事記
於是遣使者而追尋白鳥則停坐於倭琴彈
原矣仍於其處造御陵矣白鳥更飛而至河
内國志幾郡留舊市邑亦其處作御陵而令
鎮坐矣故時人號是三御陵曰白鳥陵焉然
遂高翔而上天焉因徒奉葬衣冠又欲録功
名定武部焉是歳也此天皇之御世四十三
年云年也 ○書紀
爰倭建命崩坐而後其宮簀圧賣命不違昔
日之約守御床安置神劔而在然若有祷請

国立国会図書館　タイトル『古史成文』 請求記号 848-161
ガラス使用

之人則其感應灼然矣於是宮簀比賣命會
集親舊而議曰我弃老爲則須立社而奉遷
神劔也云而定其社地矣於其地有楓樹一
株爲爾其樹自然炎燒而倒于水田中而其
水田尚熱矣仍号熱田社也○熱田記此則熱田
祝部之持齋神也○書紀
此倭建命娶于伊久米天皇之女御子両道
入毘賣命而所生坐御子稲依別王此者犬
部君等之祖也次帶中津日子命次布忍入毘賣命
○書紀又娶于其入海之弟橘比賣命而所生
坐御子若建王○古事記又娶吉備臣建比古之
女吉備穴戸武比賣而所生坐御子建殻王
者讃岐綾君伊豫之別登表之次十城別
王之祖也○書紀又娶山代之玖々麻毛理
麻佐首宮道之別等之祖也
伊豫別君等之祖也

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161
ガラス使用

比賣而所生坐御子足鏡別王
鎌倉之別小津君石代
之別漁田之別之祖也
息長田別王凡倭建命之御子等幷八柱坐
也故其息長田別王之子杙俣長比古王此
王之子飯野真黒比賣命次息長真若中比
賣次弟比賣三柱故上之若建王娶干飯野真
黒比賣而所生坐子須賣伊呂大中比古王
又一妃之所生御子
蘆髮蒲見別王此者
此王娶干淡海之柴野入杵之女柴野比賣
而所生坐子迦具漏比賣命○古
事記
四十六年云年立稚足日子命而為日嗣之
御子矣御年二十四歳也○書
紀
五十一年云年正月招群卿而敷日宴樂之
時稚足日子命建内宿禰不參赴矣天皇召
而問其故則奏曰宴樂之日群卿情在戯遊

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161
ガラス使用

バ モシ オモヒテアラハタブレテ ノウラコトカトマモリミカドヲ テ サモラヒスト マヲシカミキ
故若思有狂生之伺乎上門下而侍焉白奚
コニニ スメラミコト ノリタマヒ イヤコナリトテ コトニメグミタマヒキ ハツキニ
爾天皇詔曰灼然而異寵矣八月命武内宿
ネ ナダメタマヒカミムラシヤ ソトモノヲ カミ タル キミトキ コニ タテ
禰爲臣連八十伴緒之棟梁之臣矣於是所
マヲシ カミノミヤ エミシドモヨル ヒル サヤギ テ イデイルニ ナカリサヤ シレカバ
以大神宮蝦夷等晝夜喧譁而出入無禮之故
ヤマト ヒメノミコトノリタマフコノ エミシドモハズトベカラチカヅク
倭比賣命曰是蝦夷不可近就於神宮而
タチマツリタマフ ミカドニ モロヤマノホトリニキズ アヲ イク
進上於朝廷仍令安置御諸山傍矣未経幾
ダモ テ コトゾニキリ カミヤマノキヲ サヤギ ソノホトリニ テ ホヒヤカスオホミノカラヲ
時而悉伐神山樹叫呼鄰里而晉人民爲天
スメラ

皇聞者而詔群卿曰其置神山傍之蝦夷本
ミコト キコシメシテ マヘツギミタチノリタマヒカノオホムカミノヤマノホトリニ
有獣心難令住中國故隨其情願而宜班邦
リ ケダモノノココロガタクシテ スマ ウヘツクニニ カレマニマ ソノオリネガハ ニヨト アカチテ ウケツ
畿之外矣是令播磨讃岐伊豫安藝阿波凡
クニノトニキ コハイマノハリマ サヌキ イヨ アキ アハ スベテ
五國佐伯部之祖也○書紀
イツトセマリマタトセトイフトシノ サツキニ カホ ササキ ハリマノ オホ イラツヒメノミコト
五十二年云年五月大后播磨大郎比賣命
カムガリマヒヌフミツキニタテ、ヤ サカ イリニ メノミコトラ サダメタマヒキオホキサキトキ
薨爲七月立八坂入比賣命爲大后矣○書紀
ハツキニスメラミコト マヘツギミタチノリタマヒアレオモミテウツノミキ
天皇詔群卿曰吾顧愛

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161
ガラス使用

土月豊會毛膳職
御膳事志鳥命ニヲイマニズワスラユカニオモトメタリミムトテウスノミユノユトムケシクニテ
汤始成流所ゝ見以
六鳥命カ御魂キ膳
瓣ケ伊波奉又春秋
永世乃神財ゝ佳奉志
米ケ年 イ本ニ
子於今不忘因欲巡狩小雄王之所平之國
而此月即幸伊勢國而轉入于東海矣十月
下文ナキコソウレタナレ イタリマシカツサノクニヨリウミツヂワスアハノミナトヲコノトキニヱカクガ
至坐上總國從海路渡淡水門是時聞賢賀
鳥之鳴壱故欲見其鳥形尋而出海中得白
大蛤矣於是磐鹿六鳥命以蒲為手纏以其
白蛤鳥贈而進之○書紀 天皇嘉奇美而氏錄
美六鳥之功而賜膳夫之大伴部矣十二月

附箋
順和名抄雄嶋条下此
文引用ゝ枸杞和名沼
美久須利俗ニ久古
ゝ阿西山疑阿西之誤歟
安房国安房郡河曲下
總国結城郡高崎神
社神名帳和名国郡高橋ゝ上總国准郡湯坐以ニハ頭筆ナリ○内膳司供忌火御飯事
瑞穂傳姫皇女使人マキムクノミヤニ
苅採欲供大神之御食纒向宮也○書紀
即村木枝刈合出火欲
彼稻米供奉大神給イリトセマリイワトセトイフトコノキサラギヲ
從此時神嘗祭祭數每 五十五年云年二月以彦狭嶋王拜東山道
至神館鎮乃次饗謂
之忌火良有以也者是紀
景行天皇五十三年秋八月
丁卯朔ゝ細注高橋氏
依不抄之ゝ注也
十五國之督矣是豊城命之孫也然到坐春
高橋氏文云天皇五十三年日它咋邑臥病而薨焉是時東國百姓悲其
冬十月至上總国安房 王之不至而竊盜王之屍而葬於上野國矣
浮島宮ゝ時磐鹿六
鳥命従駕仕供奉矣
天皇葛飾度ゝ御猶六鳥留守大后記北浦與鳥音其鳴賀玖久欲見其ゝ不得登薩眞時領舶魚夕追来六鳥以角
弾弓當遊奥之中即著弾而出忽獲教長仍号曰頑魚奥此今清曰聖奥以訛也
○田ニ船過朝臣猪上ヲ居奴為矢

得八尺白蛤一具六鳥棒什二種之物獻大后大后著袷自餘供御食矣六鳥命由久今料理（クリ）而將供奉十自云々見西山栂葉而高次八枚刈作（ク）以見其木葉枚次八枚刈作而取日影而為緩以蒲葉而美頭衰矣巻。麻作気筒ヲ多須岐而吹為供奉太后詔止吽定天神（神名脱）前大嘗等（ノ）書之是時上總国安房大神ヲ御食都神止坐奉為湯坐連等始祖意富賣布連ヲ子豊日連ヲ令大贄ヲ献ヲ忌火ヲ為天伊波比由之ヲ開テ供御食ヲ并大八洲ヲ像天八下ト古八下。

紀

供奉始ヌ

但シ安房大神為御食ノソトセマリムトセトイフトシノ陣神者今大膳职祭神也今贄忌火大伴造者物部豊日連之後也

天安元年四月内膳司忌火庭火神奉授五位上御食ノ人両于於神合会給

○十一日次祭ヌ段ヲ高橋氏文云大政官符云定高橋安日雲二氏供奉神事御贖行立先後事

狭嶋王不（ニ）得向任所（一）而早薨也故汝專領東

中

國矣於是御諸別王欲（レ）成（二）竟父王之業（一）而早

上

得善政矣于時蝦夷騒動為即擧（レ）兵而擊（二）為

為（ニ）蝦夷足振邊大羽振辺遠津閇男邊等歸

服參来而盡献（二）其地（一）矣因免（二）降者（一）而誅（二）不（レ）服

者等（一）矣於是東方無事焉故其子孫於（二）今在（一）

東國（一）也○書

紀

五十七年云年九月造（二）坂手池（一）於（二）其堤上（一）令

植（レ）竹十月令（二）諸國（一）而興（二）田部屯倉（一）矣○書

紀

五十八年云年二月幸（レ）于（二）近江國（一）而於（二）志賀（一）

三歳居為是謂高穴穂宮也○書

紀

此天皇治（二）天下（一）而六十年云年十一月崩

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161

ガラス使用

坐於高穴穗宮爲御宇
者在于山辺之道上也○書
紀

志賀宮紀

稚足日子天皇元年正月即坐于高御座○書紀
坐于近淡海之志賀高穴穗宮而治者天下矣此天皇娶穗積臣等之祖建忍山垂根之女名財郎女而生坐御子和訶奴氣王一坐也○古事記
二年云年十一月奉葬大足日子天皇也○書

国立国会図書館　タイトル『古史成文』 請求記号 848-161
ガラス使用

延喜云此下四字云年二月」の下ゝ成務紀四年三月の大記ゝ例旨を採て記すべき事ゝ其ゝ此処の脱草稿ゝ狭紙ありてまぎれ入ゝ説ありと見ゆべし

三年云年正月以建内宿禰為大臣也○書紀

四年云年二月

五年云年九月○書紀

亦定賜國國之堺及大縣小縣之縣主○古事記

縣邑置稲置竝賜稲弖而為表矣○書紀

賜曽祖振命。定賜山背國造皇子意知別命三世

清書ニハ穂日命ノ子孫ヲカゝル所ノ神代史ノ如クスベシ

孫武伊賀都別命。定賜伊賀國造。出雲臣祖佐比

福足尼孫出雲笠夜命。定賜嶋津國造。天別天火

明命十世孫小止與命尾張國造。物部連祖

出雲色大臣命五世孫知波夜命。參河國造

物部連祖伊香色雄命兒卯岐美命。遠淡海

國造。物部連祖大新川命兒片堅石命。珠流

河國造。池田坂井君祖吉備武彦命兒意加

国立国会図書館　タイトル『古史成文』 請求記号 848-161

ガラス使用

部彦命。廬原國造狹穗彦王三世孫臣知津
彦公此子鹽海足尼。甲斐國造。武剌國造祖
神伊勢都彦命三世孫弟武彦命。相武國造
茨城國造祖建許呂命兒意富驚意彌命。師
長國造。出雲臣祖名二井之宇迦諸忍之神
狹命十世孫兄多毛比命。牟邪志國造。岐閇
國造祖兄多毛比命兒伊狹知直。胸刺國造

安房ヲ作ル度
延佳改

茨城國造祖建許侶命兒大布日意彌命。頃
（一下ヲ安房国造ヲニ入ル印アリ）
恵國造。茨城國造祖建許呂命兒深河意彌
命。鳥來田國造。天穗日命八世孫忍立化多
比命。上海上國造。安房國造祖伊許保止命
孫伊已侶止直。伊甚國造。和遍臣祖彦意祁
都命孫彦忍人命。武社國造。无邪志國造祖
兄多毛比命兒大鹿國造。天忍日
（二世ヲ一ヨリ共ニ字ヲ入ル印アリ）
菊麻國造。

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161
ガラス使用

阿波ハ今ノ安房

命八世孫彌都侶岐命孫大伴直大濳。阿波國造。忍疑見命孫阿閇色命。筑波國造。伊豫國造同祖建借馬命。仲國造。物部連祖伊香色雄命三世孫船瀬足尼。久自國造。彌都侶岐命孫彌佐比命。高國造。彦坐王三世孫大陀牟夜別。淡海國造。和邇臣祖彦訓服命孫大直侶宇命。額田國造。物部連祖出雲大臣命孫臣賀夫良命。三野國造。尾張連祖瀛津世襲命孫大八埼命。斐陀國造。建沼河命孫大臣命。須羽國造。阿岐國造同祖天湯津彦命十世孫比止福命。阿尺國造。阿岐國造同祖十世孫豊嶋命。伊久國造。阿岐國造祖十世孫足彦命。深羽國造。崇神朝五世孫賀我別王。淳田國造。阿岐國造同祖久志伊麻命

（迫佳三坂）

崇神ノ二字ノカハ

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161
ガラス使用

孫久麻直。信夫國造。天降天由都彦命十一
世鹽伊乃己自直。白河國造。建許呂命。石城國造。阿
彌依米命。石背國造。建許呂命。建許呂命。
閇臣祖屋主田心命三世孫市入命。高志國
造。宗我臣祖彦太忍信命四世孫若長定尼。
三國國造吉備臣祖若武彦命孫建功狹日
命。角鹿國造。活目帝皇子大入杵命孫彦狹

延ノ字
帝ノ字
延佳云活目當
ニ口キニ作ルベシ

嶋命。能等國造。宗我同祖建内足尼孫大河
音足尼。伊彌頭國造。阿岐國造同祖久志伊
麻命四世孫大荒木直。佐渡國造。尾張同祖
建稻種命四世孫大倉岐命。丹波國造。竹野
君同祖彦坐王五世孫船穗足尼。但遲麻國
造。出雲國造同祖遷狛一相奴命孫美尼布命。
二方國造。彦坐王兒彦多都彦命。稲葉國造。

国造信支ヵ脱

〇世九

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161
ガラス使用

牟邪志國造同祖兄多毛比命兒大八水足
尼。伯岐國造稲背入彦命孫伊許自別命。針
間國造。上毛野同祖御穗別命兒市入別命。
針間鴨國造。和邇臣同祖彦訓服命孫八千
足尼。吉備穴國造。多遲麻君同祖若角城命
三世孫大船足尼吉備品治國造。天湯津彦
命五世孫飽速玉命。阿岐國造。牟邪志國造

同祖兄多毛比命兒穴倭古命。大嶋國造。饒
速日命五世孫大阿斗足尼。熊野國造。觀松
彦色止命九世孫韓背足尼。長國造。印播國
造同祖敷桁彦命兒速後上命。伊余國造。長阿
比古同祖三嶋溝杭命九世孫小主足尼。都
佐國造。阿倍臣同祖大彦命五世孫田道命
筑志國造。息長公同祖稚沼毛二俣命孫都

国立国会図書館　タイトル『古史成文』 請求記号 848-161
ガラス使用

紀女加。笠志末多國造。伊甚國造同祖宇那
足尼。豊國造。吉備臣同祖吉備都命六世午
佐自命。國前國造。葛城國造同祖止波足尼
。比多國造。穂積臣同祖大水口足尼孫矢田
稻吉。末羅國造。吉備津彦命兒三井根子命
。葦分國造。神魂命十三世孫建島松命。天草
國造。紀直同祖大名草彦命兒若彦命。葛津

（午ノ国崎郡ニ対馬郷アリ百キカ）

四十八年云年三月立御諸男足仲日子命而
爲日嗣之御子焉○書紀
此天皇治晉御世而六十年云年六月崩坐
爲御年九十八歳也明年九月奉葬于倭國
狹城盾列御陵矣○書紀

国立国会図書館　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161
ガラス使用

848
161

国立国会図書館　タイトル『古史成文』 請求記号 848-161

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『古史成文』　請求記号 848-161

ガラス使用